平鹿総合病院の理念「四つの柱」
より高度な臨床
より深い研究
より広い教育
より積極的な保健活動

2018.4
Vol.22

地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療

秋田県と医療・介護の「2040年問題」

平鹿総合病院　副院長
地域連携室長　高　橋　俊　明

秋田県の総人口は995,374人と100万人を割り込み、65歳以上の人口割合は35.6％で全国1位である。この推移をみると平成18年が27.5％で現在の全国平均(27.7％)とほぼ同じである。つまり秋田県の高齢化は日本全体から10年あまり先んじていることになる。また年間死亡者数は15,493人で前年を394人上回り、年々増加する傾向はかわらない。(統計はいずれもH29年10月1日現在)

国は、いわゆる団塊の世代がすべて後期高齢者になる2025年を見据えた医療・介護制度改革を進めてきた。しかし“団塊の世代が---”というのは後付けの理由であって、実は高齢者がピークに達するのは2040年前後であるという。ちなみに2013年に130万人だった年間死亡者数が2040年には168万人に達するとみられている。これを「医療・介護の2040年問題」と称していくつものメディアが取り上げている。

一般に高齢化・人口減少によって医療ニーズは縮小するといわれる。おそらく外来診療においてはそうであろう。しかし高齢者は多疾患をかかえるがゆえ多科の医師が関与する。そして死亡者数が多いということは病院・在宅・施設看取りがさらに増えていくということで、結果的に総医療ニーズが減るとは思えない。われわれ勤務医の実感でもそうである。秋田県では少なくとも2030年ごろまでは総医療ニーズは増え続けていくのではないだろうか。

地域の医療・介護はさらに連携を深めながら、持久力もあわせ持たなくてはならないだろう。

もくじ

秋田県と医療・介護の「2040 年問題」……❶
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介……❷
地域医療連携セミナー開催！……❸
患者紹介に関するお願い……❹

JA秋田厚生連・平鹿総合病院

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

曽 根 医 院（横手市大森町）

曽根医院
院長
曽 根　純 之

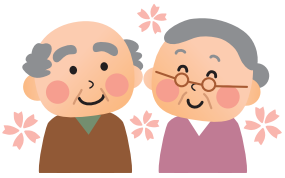
当地に開業して、この春より23年目になります。子供から高齢者まで、内科から外科系まで、時には深夜でも患者さんを診てきました。医療圏は旧大森町の北側の3000人でしたが、人口が激減し、今では2000人を切るようになり、患者さんの変化とともに当院の役割も変わってきています。

7～8年前までは、外来医療の延長線に在宅医療があって、常に20名ほどの在宅患者がいて、多くの方をそのまま看取ってきました。しかし最近は、次々と出来る介護施設に入る人が増え、少し手がかかるとすぐ施設入所という流れになっています。おかげで、現在は自宅での在宅患者は10名以下で、代わりに施設で診ている高齢者が50名ほどとなっています。

施設に入ることによって看護師の目が加わるため、個人的には楽な部分もありますが、看取る段階になって施設間に温度差があり、最終段階だけ病院にお願いすることがあります。これは地域包括ケアに逆行する行為であり、包括支援センターと協力しすでに20か所以上の施設へ出前講座を行い、「施設での看取りの必要性」を説いて回っています。

また、地域での会合で「やぶ医者の独り言」という健康講座をおこなっており、笑いの中に健康のためのワンポイントを入れて話をしています。御用命があれば、どこまででもお伺いしますのでお声掛けください。

“ずっとお家で”を支えます



株式会社 虹の街　横手営業所
虹の街訪問看護ステーション横手
管理者
佐 藤　美 咲

虹の街横手営業所は、平成28年１月に開設しました。訪問入浴・訪問介護・訪問看護・居宅・福祉用具の計５部門が現在揃っており、１つの事業所で在宅に必要なサービスを担うことができます。これは、虹の街の強みの１つであると言えます。営業所内に全ての部門が揃っているため、情報の共有や連携を密にとることができます。お客様やケアマネージャーさんからも「１つの事業所で対応してもらうことができ安心」との声をいただいています。在宅サービスで何かお困りのことがありましたら、ぜひ虹の街に御相談ください。

近年、入院期間の短縮化が強化されています。それに伴い注目されているのが「訪問看護」です。虹の街訪問看護ステーション横手は、平成28年７月に開設しました。まだまだ未熟なステーションですが、お客様により良いサービスが提供できるよう日々奮闘しています。医療行為がある方にとってはすぐに結びつくサービスであると思いますが、そのような方以外でも大いに活用できるサービスです。看護師が自宅に来る安心感、24時間看護師と連絡をとることができる心強さ…。訪問看護を導入することで住み慣れた自宅での生活を維持することが可能になるなど、良いことがたくさんあります。どんな些細なことでも構いません。お気軽に御相談下さい。「自宅で過ごしたい」「自宅で看病したい」という御本人・御家族の思いを大切に、今後も皆様のお力になれるよう励んでいきたいと思います。

地域医療連携
セミナー開催！

当院では、医療・介護連携の推進を図るため、年1回、地域医療連携セミナーを開催しています。
今年度は、今年開設した入退院支援センターや退院支援専従看護師の活動の紹介を兼ねて、退院支援における院内・外の連携強化に向けた取り組みについて報告いたしました。

日　時　平成29年11月30日（木）

場　所　平鹿総合病院　講堂

テーマ　「当院の退院支援強化に向けた取り組み」

参加職種　医師・薬剤師・保健師・看護師・訪問看護師・理学療法士・MSW・ケアマネージャー・施設管理者・行政担当者等　　参 加 者：128名

報告

1．退院支援におけるMSWの関わりについて　医療福祉相談室　MSW　中田　琢也
2．生活の場に戻す退院支援～退院支援専従看護師の活動～　入退院支援センター退院支援専従看護師　佐藤　泰子
3．地域包括ケア病棟からの報告　6階もり病棟　看護主任　新田　広子
4．くらしを支える医療と介護を地域へつなぐために　地域医療連携室　看護主任　大沢　知佳

今回のセミナーでは、退院調整部門の担当者と地域包括ケア病棟の看護師から、退院支援におけるそれぞれの役割や当院の退院支援の流れ、具体的な取り組みについて、事例を交えながら報告をいたしました。

患者さんやご家族が、退院後も住み慣れた生活の場で自分らしく暮らすためには、医療者が患者さんの生活背景や想いをよく聞き、退院後の生活をイメージしながら支援にあたること、また、患者さんやご家族が病状や退院後の治療を理解し、どのように療養生活を送るか意思決定できるよう支援することが重要です。今後も、地域の多職種との情報共有を密に行い、患者さんにとっての最善をともに考え、支援にあたっていきたいと思います。

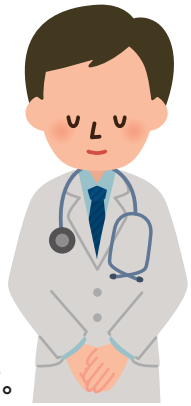
アンケート結果

- マニュアル作成や入退院支援センター等参考になった。かかりつけ医の依頼を連携室で行っていることもびっくりした。当院でも参考にしていきたい。
- 退院支援での問題を具体的に説明し、介護側からどういう情報を提供してもらいたいか等、互いの立場でディスカッションできる内容にしていただけたらと思う。
- 今後も医療と福祉の連携の機会を設けていただければよいと思う。
- 在宅での暮らしの目線でのアセスメントを意識してもらいたい。

貴重なご意見を、今後の退院支援に活かしていきたいと思います。

地域医療機関の先生方へ

患者紹介に関するお願い



日頃より、当院へ患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。

当室では、患者さんの待ち時間の短縮と外来運用の効率化のため、事前に診療日時の予約をお取りいただくよう、お勧めしております。

また、当日の受診依頼については、その日の各科の診療状況に応じて、対応が困難な場合があります。

お手数をおかけいたしますが、**できるだけ当室を通して、事前に診療予約の申し込み**をいただきますよう、お願いいたします。

尚、**受付時間外のご紹介**につきましては、**必ず当室へご連絡**をお願いいたします。

救急搬送の依頼は、直接、当番医へご連絡をお願いいたします。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●紹介患者診療予約の申し込み … 地域医療連携室までご連絡ください。

TEL. **0182-45-6012**（連携室直通）
FAX. **0182-32-0698**（連携室専用）

※「外来診療申込書」と「診療情報提供書」をFAXにてお送りください

●救急搬送の依頼 … 希望する診療科の当番医へお電話ください。

TEL. **0182-32-5121**（代表）
FAX. **0182-32-0649**（救急搬送対応）

※急性心筋梗塞や急性冠症候群が疑われる場合

緊急心カテ・ホットライン　PHS　070-6498-5960

地域医療連携室スタッフ

室　長	高橋　俊明
副室長	榎本　好恭
事務次長（医事企画課）	橘　善幸
看護副師長	大日向久美子
看護主任	大沢　知佳
事　務	中嶋　秋子

病院住所／〒013-8610 横手市前郷字八ツ口3番1
TEL／0182-32-5121 ㈹　FAX／0182-33-3200
［地域医療連携室連絡先］
●地域医療連携室
TEL：0182-45-6012／FAX：0182-32-0698
●HP：http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/